

奈良国立文化財研究所概要



1989

目 次

沿革付年表	2
組織	3
機構	3
定員	3
役職職員	4
予算	4
歳出予算	4
科学研究費補助金	4
施設	5
土地及び建物	5
事業	7
建造物研究室	7
歴史研究室	7
平城宮跡発掘調査部	8
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	9
飛鳥資料館	10
埋蔵文化財センター	11
普及活動	12
公開講演会	12
現地説明会	12
刊行物	12
蔵書及び資料	14

沿革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年4月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれたことによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の4室で発足した。

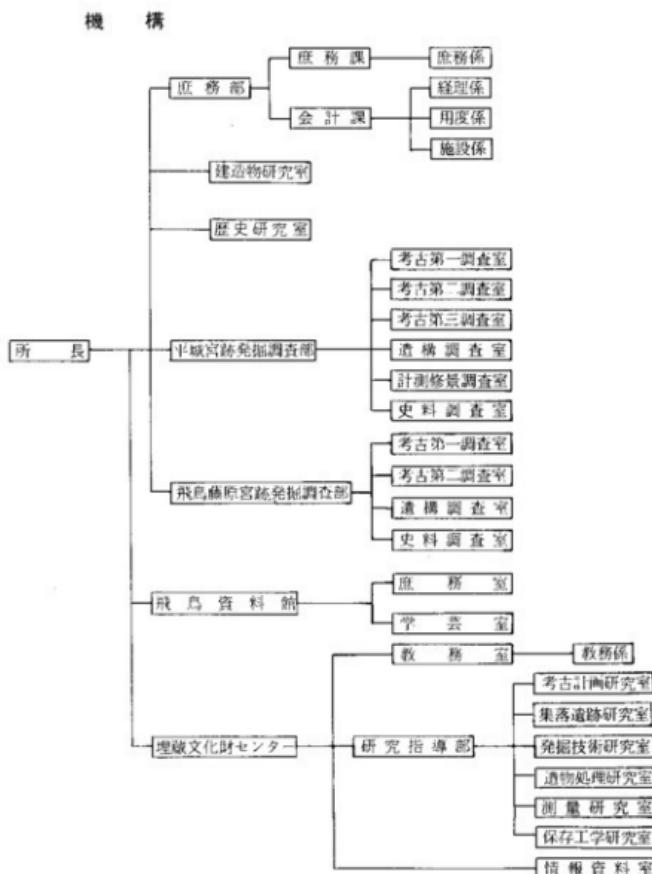
その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年4月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年4月には飛鳥資料館、昭和49年4月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

年表

昭和 26. 10. 6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会裁定第11号）により設置準備会発足
27. 4. 1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置
29. 7. 1	奈良国立文化財研究所と改称
35. 10. 15	平城宮跡に発掘調査事務所設置
36. 9. 16	庶務室は庶務課となる。
38. 4. 10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39. 4. 1	同調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40. 4. 1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
43. 6. 15	文化庁発足、その附属機関となる。
45. 4. 15	平城宮跡資料館開館
45. 4. 17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、造構調査室、計測修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48. 4. 12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置
49. 4. 11	庶務部（庶務課、会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測量研究室）設置
50. 3. 15	飛鳥資料館開館
50. 4. 2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設
51. 5. 10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設
52. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設
53. 4. 5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、造構調査室、史料調査室と改める。
53. 10. 1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設
55. 4. 5	美術工芸研究室を奈良国立博物館（仏教美術資料研究センター）に移換
55. 4. 26	府舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを庁舎に統合
58. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に発掘技術研究室新設

組 織

平成元年4月1日現在



定 員

区 分	指 定 職	行 政 職 (一)	行 政 職 (二)	研 究 職	計
人 員	1	22	3	62	88

役職職員

所長	鈴木嘉吉						
庶務部	部長廣瀬了平	庶務會計	課課長	中小川	良照	和夫	
建造物研究室		室	長	宮本	長二郎		
歴史研究室		室長事務取扱	鈴木嘉吉				
平城宮跡発掘調査部	部長町田章	考古第一調査室長 考古第二調査室長 考古第三調査室長 遺構修復調査室長 史料科	考古第一調査室長 考古第二調査室長 考古第三調査室長 遺構修復調査室長 史料科	金田利子 毛上高継 高継 黒木山川	辺光野 藤村 崎下本 山川	裕征後邦要 之夫彦一 一宏	
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	部長牛川喜幸	考古第一調査室長 考古第二調査室長 考古第三調査室長 遺構修復調査室長 史料科	考古第一調査室長 考古第二調査室長 考古第三調査室長 遺構修復調査室長 史料科	黒木山川	崎下本 山川	正忠俊 尚一	
飛鳥資料館	館長鈴木嘉吉	庶務室長	庶務室長	柿猪	本熊	兼治勝	
埋蔵文化財センター	センター長田中琢	教務資料室長	教務資料室長	登岩	り本 尊次	哉郎	
研究指導部	部長佐原真	考古学研究室長 古墳技術研究室長 発掘測量研究室長 保存工学研究室長	考古学研究室長 古墳技術研究室長 発掘測量研究室長 保存工学研究室長	松工西沢木 田	沢村田全 中	並善 正敬哲	牛通康昭雄

予算

歳出予算

(単位 千円)

区分	62年度	63年度	元年度(当初)
人件費	542,452	560,682	575,793
運営費	1,001,649	798,704	772,704
施設費	280,685	309,291	326,013
臨時の経費(備註)	0	69,858	107,346
計	1,824,786	1,734,535	1,781,856

科学研究費補助金

() 書は件数(単位 千円)

区分	61年度	62年度	63年度
特定研究①	(1) 1,800		
一般研究④	(1) 3,700	(1) 600	(1) 700
~⑧	(3) 5,500	(2) 2,200	(2) 3,700
~⑨	(3) 2,800	(3) 3,100	(5) 3,900
奨励研究⑤	(4) 3,600	(2) 1,700	(3) 2,500
試験研究⑥	(1) 1,800		(1) 3,400
特別推進研究⑦	(1) 10,000	(1) 8,000	(1) 8,000
研究成果刊行費		(1) 6,790	(1) 6,790
計	⑩ 29,200	⑩ 22,390	⑩ 28,990

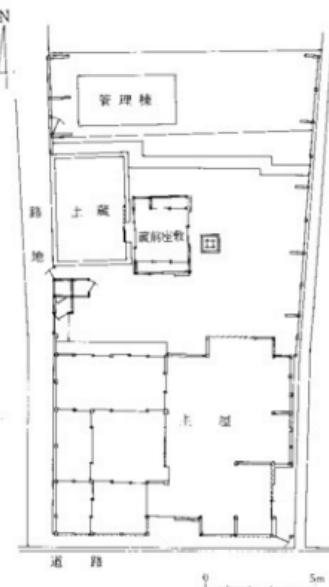
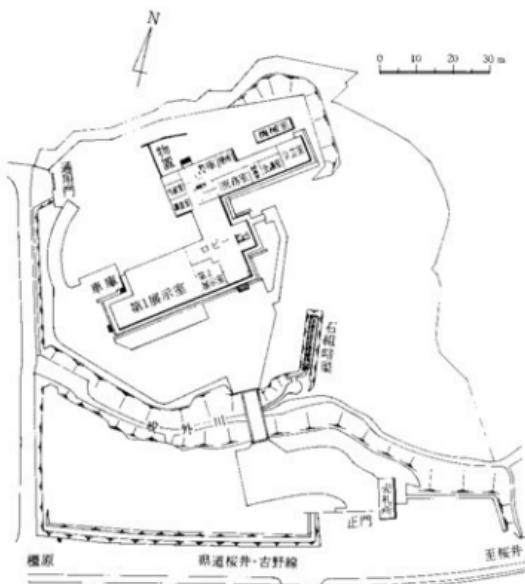
施 設

土地及び建物

平成元年4月1日現在

名 称	土地面積	建 物 面 積		備 考
		建面積	延面積	
本 館	8,860 m ²	2,720 m ²	6,721 m ²	
平 城 宮 跡	1,078,597	8,482	11,539	土地……文部省所管 建物……平城宮跡資料館、覆屋等
藤 原 宮 跡	321,223	36	36	土地……文部省所管
藤原発掘調査部	20,515	4,489	6,426	
飛 烏 資 料 館	17,092	1,465	2,682	
旧米谷家住宅	298	190	213	民有地借上 重要文化財
宿 舍 飛鳥資料館 郡 山	1,654 1,343 311	334 225 109	378 225 153	土地 231 m ² 大藏省所管を含む
合 計	1,454,960	17,716	27,995	





事業

建造物研究室

社寺建築・庭園・民家及び伝統的建造物群に関する調査研究とその結果の公表を行う。



建 造 物 の 調 査

歴史研究室

考古、史跡及び社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の公表を行う。



古 文 書 等 の 調 査

平城宮跡発掘調査部

奈良時代70余年のあいだ都として栄えた平城宮跡等の発掘や調査研究を行うとともに、出土した木器・金属器・土器・瓦・木簡等の遺物や遺構の保存整理、遺構の計測・修景、史料の収集、及びそれらの調査研究とその結果の公表を行う。

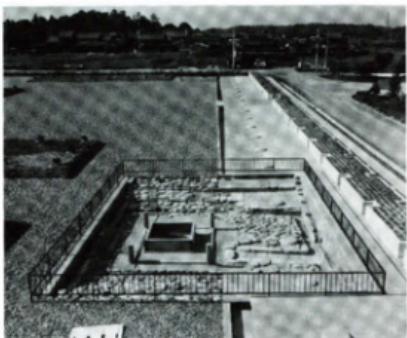
さらに発掘調査が終わった地域について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構・遺物等を展示して一般に公開している。



平城宮跡全景



発掘された大極殿



内裏井戸の遺構復原

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥・白鳳文化が開花した時代の中心的地域である飛鳥地方及び藤原宮跡における宮殿その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。



飛鳥藤原宮跡発掘調査部庁舎全景



山田寺東回廊



藤原宮跡大極殿周辺

飛鳥資料館

飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。



飛鳥資料館全景



石人像（重要文化財）

飛鳥時代の庭園に使われた噴水



高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

入館者数

(単位 人)

区分	年 度		
	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
有料観覧	一般	51,734	48,401
	高・大学生	14,314	12,905
	小・中学生	16,695	15,863
	一般	25,851	22,797
	高・大学生	30,310	32,858
	小・中学生	81,200	81,508
計		220,104	214,332
無料観覧		13,401	12,473
合	計	233,505	226,805
			177,775

埋蔵文化財センター

埋蔵文化財に関する調査研究及び関連技術の開発ならびにその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、昭和62年度までの受講者累計は2,985名である。

区分	課程	区分	課程
一般研修	一般課程 生物環境課程	専門研修	古墳時代遺跡調査課程 保存科学課程
専門研修	" 遺構探査・予備調査課程	"	建築遺構調査課程
"	石器調査課程	"	埋蔵文化財情報課程
"	遺跡測量課程	特別研修	埋蔵文化財基礎課程
"	遺跡環境課程	"	底氷性遺跡調査課程
"	遺跡保存整備課程		



研修風景



情報処理機器 埋蔵文化財関係資料の情報処理を行う。



P.E.G含浸装置 ポリエチレンゴリコールを使用し、木材、木器等を永久保存するための処理装置



写真測量図化機 ステレオメトログラフE型を使用して実測図を作成する。

普及活動

(1) 公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演題	講演回数	演題
第61回 (62.11.14)	庭園と眺望 青蓋・青羊・真羊・三羊 — 蔵銘にみえる災異思想 —	第63回 (63.11.12)	平城宮朱雀門の復元 平安貴族は瓦葺邸宅に住んでいなかった
第62回 (63. 5.21)	「長屋王邸宅跡を掘る」 平城京の調査 長屋王邸宅跡の変遷 長屋王邸と「長屋聖宮」木簡		

(2) 現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

説明会日	発掘調査場所	説明会日	発掘調査場所
62.11. 7	平城宮跡第182次 平城京左京三条二坊・一・二・七・八坪	63.11.12	平城宮跡第194次（平城宮西方言術） 石神遺跡第8次
63. 3. 5 ~	平城京左京二条二坊十四坪	11.19	
5.14	平城宮跡第186次（平城京左京三条二坊二坪）	11.26	藤原宮跡第58次
6.25	平城宮跡第188次（平城京第一次朝廷御朝庭）	〃	藤原宮跡第59次
10.29	平城宮跡第193次（平城京左京三条二坊七・八坪）	1. 2. 4	平城宮跡第197次（平城京左京三条二坊） 平城宮跡第195次南、197次西
11. 5	平城宮跡第190次（平城京左京三条二坊一・二坪）	3.18	（平城京左京三条二坊一坪）

(3) 刊行物

イ、学報

年度	名 称	年度	名 称
1954	第1冊 仏道運度の研究	1954	第26冊 平城宮発掘調査報告Ⅷ
	第2冊 修学院離宮の復原的研究		第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
1955	第3冊 文化史論叢		第28冊 研究論集Ⅲ
1956	第4冊 奈良時代僧房の研究		第29冊 本曾奈良井一町並調査報告
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告	1976	第30冊 五条一町並調査報告一
1958	第6冊 中世庭園文化史	1977	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査の記録Ⅱ
	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告		第32冊 研究論集Ⅳ
1950	第8冊 文化史論叢Ⅱ		第33冊 イタリア中部の一山岳集落における民家調査報告
	第9冊 川原寺発掘調査報告		第34冊 平城宮発掘調査報告Ⅸ
1960	第10冊 平城宮跡・飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告		第35冊 研究論集Ⅴ
1961	第11冊 郡の御所と御室—院家建築の研究—	1978	第36冊 平城宮整備調査報告Ⅰ
1962	第12冊 巧匠阿弥陀仏快慶		第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第13冊 寝殿造系庭園の立地的考察	1979	第38冊 研究論集Ⅵ
	第14冊 唐招提寺藏「レース」と「金龜舍利塔」に関する研究	1980	第39冊 平城宮発掘調査報告 X
	第15冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ	1981	第40冊 平城宮発掘調査報告 XI
1963	第16冊 平城宮発掘調査報告Ⅲ	1984	第41冊 研究論集Ⅶ
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告Ⅳ		第42冊 平城宮発掘調査報告 XII
	第18冊 小堀遠州の作事	1988	第43冊 日本における近世民家（農家）の系統的発展
1967	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家		第44冊 平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告
1969	第20冊 物名製の成立	1986	第45冊 藤原寺発掘調査報告
1971	第21冊 研究論集 I		第46冊 平城京右京八条十三、十四坪発掘調査報告
1973	第22冊 研究論集 II		第47冊 研究論集Ⅷ
1974	第23冊 平城宮発掘調査報告Ⅴ		
	第24冊 高山一町並調査報告—		
1975	第25冊 平城京左京三条二坊		

口、史料

年度	名 称	年 度	名 称
1954 第1冊	南無阿弥陀仏作普集(複製)	1979 第16冊	日本美術院彫刻等修理記録VI
1955 第2冊	西大寺教尊伝記集成	第17冊	平城宮木簡三 図版・解説
1963 第3冊	仁和寺史料 寺誌編一	第18冊	藤原宮木簡二 図版・解説
1964 第4冊	俊坊重源史料集成	第19冊	東人古文書目録第二卷
1966 第5冊	平城宮木簡一 図版	第20冊	日本美術院彫刻等修理記録VII
1967 第6冊	仁和寺史料 寺誌編二	第21冊	東大寺文書目録第一卷
1969 第7冊	平城宮木簡一 解説(別冊)	第22冊	七大寺巡礼私記
1970 第7冊	唐招提寺史料第一	第23冊	東大寺文書目録第四卷
1974 第8冊	平城宮木簡二 図版・解説	第24冊	東大寺文書目録第五卷
第9冊	日本美術院彫刻等修理記録I	第25冊	平城宮出土墨書き土器集成 I
1975 第10冊	日本美術院彫刻等修理記録II	第26冊	東大寺文書目録第六卷
1976 第11冊	日本美術院彫刻等修理記録III	第27冊	木器集成図録-近畿古代篇
1977 第12冊	藤原宮木簡一 図版・解説	第28冊	平城宮木簡四 図版・解説
第13冊	日本美術院彫刻等修理記録IV	第29冊	興福寺典籍文書目録第一卷
1978 第14冊	日本美術院彫刻等修理記録V	第30冊	山内清男考古資料I
第15冊	東大寺文書目録第一卷	第31冊	平城宮出土墨書き土器集成 II

ハ、飛鳥資料館図録

年度	名 称	年 度	名 称
1976 第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏	1984 第12冊	小健策の世界-埴輪から瓦塔まで-
第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇	第13冊	藤原宮一半世紀にわたる調査と研究
1977 第3冊	日本古代の墓誌	第14冊	日本と韓国の塑像
1978 第4冊	日本古代の墓誌 銘文篇	第15冊	飛鳥寺
第5冊	古代の誕生仏	第16冊	飛鳥の石造物
1979 第6冊	飛鳥時代の古墳-高松塚とその周辺	第17冊	萬葉乃衣食住
1980 第7冊	日本古代の駄尾	第18冊	手中の星
1981 第8冊	山田寺展	第19冊	古墳を科学する
1982 第9冊	高松塚拾年	第20冊	聖德太子の世界
1983 第10冊	渡来人の寺-檢限寺と坂田寺-	第21冊	仏舍利懶納
第11冊	飛鳥の水時計		

ニ、基準資料

年度	名 称	年 度	名 称
1973 第1冊	瓦編1 解説	1978 第6冊	瓦編6
1974 第2冊	瓦編2 解説	1979 第7冊	瓦編7
1975 第3冊	瓦編3	1980 第8冊	瓦編8
1976 第4冊	瓦編4	1983 第9冊	瓦編9
1977 第5冊	瓦編5		

ホ、地図 (大縮尺図、縮尺1:1,000、航空写真より圖化)

区 分	圖化面数	國 化	地 域
平 城 京 地 域	75	押熊、桑原、中山、外山、勝列、渋谷、赤井谷、秋藤寺、山陵、西畠、歌姫、コナベ、ウナベ、黒髪山、佐保山、船若寺、野神、西人寺、平城宮跡、法華寺、不退寺、佐保、法蓮、東大寺跡、宝來、菅原、尼ヶ辻、北新、田村、藏ノ町、三条、楢原寺、春日野、春日神社(二社)、平松、唐招提寺等、六条、柏木、八島田、大安寺跡、京終、元興寺、紀寺、新薬師寺、大池、薬師寺、西ノ京、杏、八条、神殿、尉塚、北古市、鹿野園(一)、大轄冠、西市、觀音寺、羅城門、西九条、東九条、北水井、登坂、横井、占市、南郡山、郡山、野垣内、下二橋、上三橋、北之庄、今市、帝解	
下 ツ 道 地 域	47	大師、若柳、美濃庄、井戸野、池田、藏之庄、潘条、中城、免志院、馬司、伊豆七条、南八条、中、宮堂、二階堂、西嘉幡、嘉幡、庵治、溝幡、石見、唐古、八尾、鍵、田原本、阪手、秦之庄、南阪手、多、笠縫、新口、西垣内、上品寺、新賀、鶴田部、鶴田部北方、穴闌、長棄、保田、唐院、沢、大野、小柳、大場、乙木(米)、佐保庄、竹之内	
飛 鳥 藤 原 地 域	48	木原、耳成山、常磐、西之宮、大福、今川(一)、小房、鶴公、高殿北部、膳夫、吉備、載傍山、大久保、木殿、飛驥、高殿、香久山、池之内、池尻、久米寺、丈六、田中、雷、奥山、山田寺、鳥屋、益田池、見瀬、和田、豐浦、飛鳥寺、八鈞、越、野口、立部、橘寺、岡寺(一)、真弓、松前、上平田、祝戸、板田、觀覺寺、栗原、大根田、東常門	
計	170		

その他、編集図(縮尺1:2,000)平城宮跡、藤原宮跡、藤原京(三鷹)、五条野、飛鳥、若櫻莊、池田莊、小東莊、乙木莊

へ、年報

1958～1988毎年1冊 計31冊

ト、埋蔵文化財ニュース

1975～1988毎年数冊 計66冊

蔵書及び資料

蔵書

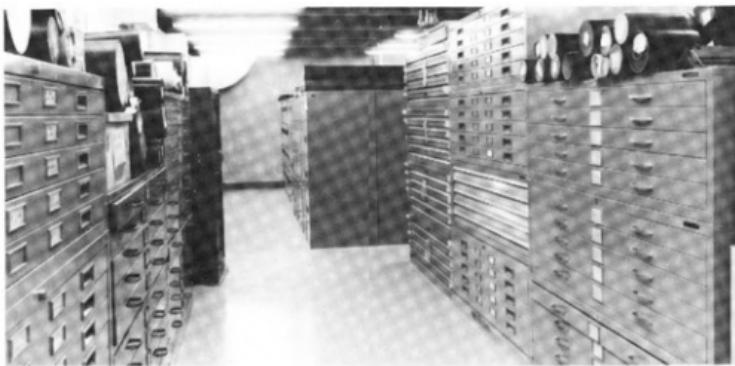
108,007冊(平成元年3月31日現在)

区分	種別	購入	寄贈	計
63年度	和漢書 洋書	1,321 108	4,492 38	5,813 146
累計	和漢書 洋書	44,769 5,368	56,871 999	101,640 6,367

資料

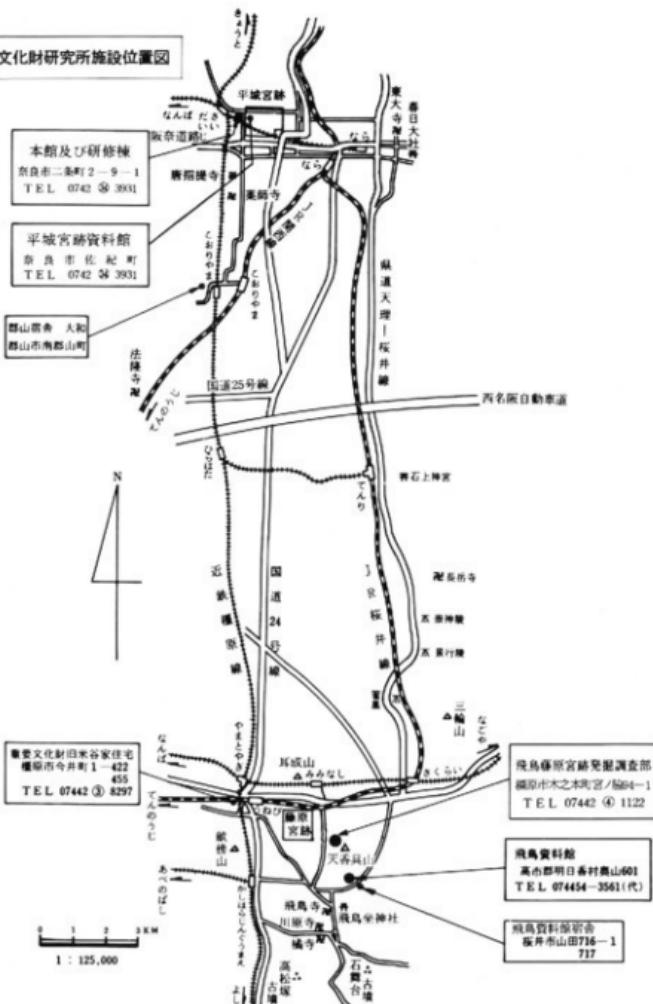
372,540点(平成元年3月31日現在)

区分	キャビネ	スライド	マイカ	プロニー	ミニコピー	その他	計
63年度	1,225	1,435	5,232	2,371	29	78	10,370
累計	114,312	113,786	79,721	54,207	2,281	8,233	372,540



第三書庫 地図、実測図、拓本、航空写真ロールネガ
などを保管

奈良国立文化財研究所施設位置図



飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西暦	年号	事項	西暦	年号	事項
538		仏教伝来	711	4	大官大寺焼失
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	716	靈龜 2	大安寺を移す
593	推古 1	推古天皇豐浦宮に即位	718	養老 2	薬師寺・元興寺を移す
601	9	聖德太子斑鳩宮を造る	730	天平 2	薬師寺東塔建立
603	11	小墾田宮に遷る	739	11	法隆寺夢殿、伝法堂建立
606	14	坂田寺を造る	740	12	恭仁宮に遷る。平城宮人蔵殿等を運ぶ
607	15	法隆寺を造り始める	744	16	難波を都とする
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	745	17	平城宮に遷る。法華寺を造る
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	752	天平 勝宝 4	東大寺大仏開眼供養
639	11	百濟大寺を造り始める	755	7	平城宮改作
640	12	百濟宮に遷る	756	8	聖武天皇77忌に遺品を東大寺等に納める
641	13	山田寺を造り始める			
642	皇極 1	小墾田宮に遷る	759	天平 宝字 3	唐招提寺を造る。平城宮東朝集殿を唐招提寺に施入
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	761	5	平城宮改作
645	大化 1	難波長柄豊確宮に遷る			
653	白雉 4	中大兄皇子、皇極等と飛鳥河辺行宮に遷る	765	天平 神護 1	西大寺を造る
655	齊明天 1	飛鳥板蓋宮焼失、飛鳥川原宮に遷る	767	神護 景雲 1	西隆寺を造る。東院玉殿完成
656	2	飛鳥岡本宮に遷る	784	延暦 3	長岡京に遷る
667	天智 6	近江大津宮に遷る	794	13	平安京に遷る
672	天武 1	飛鳥淨御原宮に遷る			
680	9	薬師寺を造り始める。橘寺尼房焼失	809	大同 4	平城上皇、平城宮に遷る
691	持統 5	藤原京を鎮祭する			
694	8	藤原宮に遷る	824	天長 1	平城上皇薨去
710	和銅 3	平城京に遷る。興福寺を造る			

(裏表紙写真) 鬼面文鬼瓦

平城宮の内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最大の鬼瓦。天年間に造営された内裏地域の建物の屋根を飾った。

奈良国立文化財研究所概要

発行日 平成元年5月30日
発行 奈良国立文化財研究所

